

故人を偲び、そのご恩に感謝するために忌日や命日に行事のことです。

(営み方は宗教や地方の風習などによって異なります)

近年は、初七日と四十九日に重きを置く傾向がありましたが、それはその他の法要も盛大に行われていました。
(表では亡くなった日を数えた日数を掲載)



葬儀にひと区切りをつける日として特に大切な法要になっています。最近では本葬後に行われることが多く、親しかった友人・知己などを招いてお寺や自宅で読経、その後、お菓子や料理を供します。

故人が仏になる日とされ、香典返しや形見分けなど重要な日。当たり日直前の休日、または当たり日前集まりやすい日に読経供養と式を行い、その後、参り食事を供し、引き出物を渡します。

一般には、故人を偲ぶ法要は「三十三回忌」までで済ませることが多いようです。

親族や親しかった友人・知己などを招いてお寺や自宅に集まり、お菓子や料理を供します。